

第2回 タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

日時：平成28年12月15日（木）15：00～17：00

場所：札幌 ACU-A（アスティ 45）12階中研修室 1206

議事次第

1. 開会

2. 議事

- （1）第一回検討協議会・現地視察会の概要と主な意見について
- （2）専門部会の設置（検討体制案）について
- （3）協議会の取組方針（案）について
- （4）協議会として早期に対応すべき事項（案）について
- （5）その他

3. 閉会

<配布資料>

議事次第

配席図

資料1：第一回検討協議会の概要・現地視察会の概要

資料2：舞鶴遊水地周辺におけるタンチョウ・コウノトリの飛来状況

資料3：タンチョウも住めるまちづくり検討協議会における検討体制（案）

資料4：生息環境専門部会設置要綱（案）

資料5：地域づくり専門部会設置要綱（案）

資料6：タンチョウも住めるまちづくり検討協議会における取組方針（案）

資料7：協議会として早期に対応すべき事項

参考資料1：意見交換会（10/7）等における主な意見

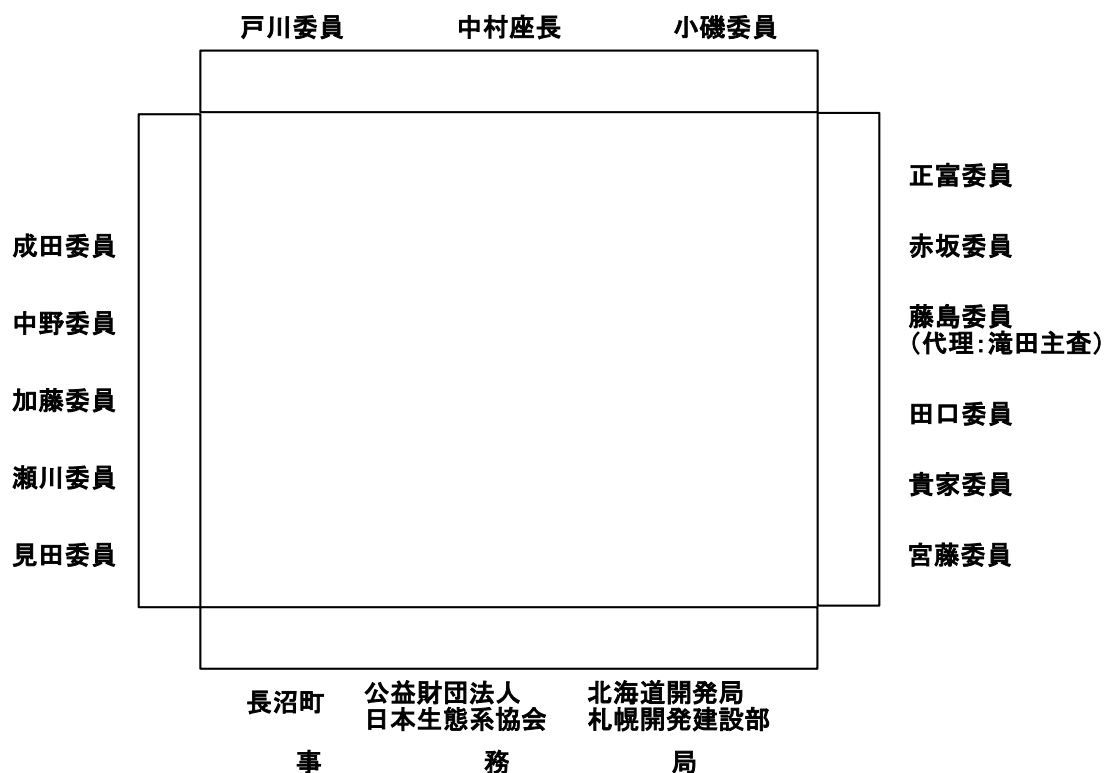
参考資料2：イベント「野生生物と農業」の概要報告

第2回 タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

日時：平成28年12月15日（木）15：00～17：00

場所：札幌 ACU-A（アスティ 45）12階中研修室 1206

	氏名	所属	備考
協議会委員	赤坂 猛	酪農学園大学教授	
	加藤 幸一	舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会 会長	
	小磯 修二	北海道大学特任教授	
	貴家 尚哉	千歳川河川事務所長	
	瀬川 明廣	まおいネットワーク広場	
	田口 和哉	環境省北海道地方環境事務所 野生生物課長	
	戸川 雅光	長沼町長	
	中野 政光	長沼町商工会 副会長	
	中村 太士	北海道大学大学院 教授	座長
	成田 正夫	ながぬま農業協同組合 代表理事組合長	
	藤島 京子	北海道 空知総合振興局 地域創生部長	代理出席：滝田主査
	正富 宏之	専修大学北海道短期大学 名誉教授	
	見田 義之	株式会社アクティブリンク 代表取締役社長	
	宮藤 秀之	北海道開発局 札幌開発建設部 次長	
	森下 伸	長沼町観光協会 会長	欠席



タンチョウも住めるまちづくり検討協議会（第1回）

資料1

舞鶴遊水地を軸としたタンチョウも住めるまちづくりに向けて「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会（第1回）」を開催しました。

- 開催日時：平成28年9月6日（火） 15：00～17：00
- 実施場所：ロイトン札幌 パールホール（20階）
- 参加機関等：学識経験者、長沼町関連団体、北海道空知総合振興局、北海道地方環境事務所、長沼町、札幌開発建設部、日本生態系協会 等



協議会の開催風景

開会の様子

協議会は、委員（14名）と、町内外の一般傍聴者を合わせて約40名の参加のもと開催されました。

はじめに、長沼町の戸川町長より開会の挨拶があり、「新たな協議会が立ち上がることは、大きな一歩である」と期待が寄せられました。

委員による意見交換

事務局からのこれまでの取組経緯や先進事例の説明後、各委員において様々な視点から意見が交わされました。

○地元商品のパッケージなどにタンチョウの名称を活用したい
○タンチョウの見守り方などルール作りが必要
○ツルとともに暮らしていた原風景を取り戻したい
○長沼町だけでなく、流域全体の観点も重要 等

また、専門部会を設置し、より具体的に議論を深めていく必要があるなどの共通認識が得られました。

最後に、札幌開発建設部より「洪水時の治水機能だけでなく、地域の振興に寄与する遊水地にしたい」と意気込みが述べられました。



開会の挨拶
長沼町 戸川町長



北海道大学大学院
中村先生（座長）



専修大学北海道短期大学
正富先生



酪農学園大学
赤坂先生



舞鶴遊水地にタンチョウを
呼び戻す会 加藤会長



ながめま農業協同組合
成田組合長



長沼町商工会
中野副会長



長沼町観光協会
森下会長



マオイネットワーク広場
瀬川氏



㈱アクティブリンク
見田社長



北海道空知総合振興局
藤島部長



北海道地方環境事務所
田口課長

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 現地視察会

魅力あるまちづくりにむけて 現地視察会 ～タンチョウが飛来する舞鶴遊水地～

- 開催日時：平成28年10月7日（金） 9：00～13：00
- 実施場所：舞鶴遊水地、道の駅マオイの丘公園、長沼町役場
- 参加者：約50名（協議会委員、企業関係者、町内農業者、長沼町、札幌開発建設部、日本生態系協会 等）



舞鶴遊水地の視察状況



道の駅マオイの丘公園の視察状況

現地視察の様子

参加者約50名で舞鶴遊水地、道の駅マオイの丘公園に加え、当日朝にタンチョウの飛来が確認された箇所を視察しました。

舞鶴遊水地や長沼町にある施設等の説明のほか、正富委員からタンチョウの生態、加藤委員から最近のタンチョウの飛来状況について説明がありました。

意見交換会

小磯委員による他地域の事例を交えた講話のあと、舞鶴遊水地やタンチョウを活かした地域づくりについてグループディスカッションを行いました。

- 拠点施設やフットパス整備など人を呼べる工夫が必要
- 環境教育、学習の場（教材）として活用したい
- 町内外のアーティストとの連携や写真コンテストなどを開催したい
- タンチョウをシンボルとした農産物ブランドづくりを進めたい
- 写真撮影、野鳥観察などのルール作りが必要
- タンチョウが好むような豊かな自然環境にしたい
- 取り組む仲間を増やし、活動の輪を広げたい

等

中村座長からは、「地域の人たちのいろいろなアイデアが出てきたことは貴重」、「住民の力による地域づくりを長沼町から発信していければいい」との総括がありました。



意見交換会の状況



小磯委員からの講話
『タンチョウとの共生による地域の
新たな経済価値創出に向けて』



参加者が5グループに分かれたグループディスカッションの様子

平成28年の舞鶴遊水地周辺におけるタンチョウ・コウノトリの確認された状況

資料2

平成28年 今夏(8月以降)のタンチョウ飛来状況

8月27日 舞鶴遊水地	10月6日 千歳市と長沼町の堺、デントコーン畑
8月28日 遊水地周辺の農地	10月7日 千歳市と長沼町の堺、デントコーン畑
9月1日 舞鶴遊水地	10月10日 千歳市
9月2日 舞鶴遊水地	10月11日 千歳市
9月3日 舞鶴遊水地	10月12日 根志越遊水地
9月13日 31区の農地	10月13日 根志越遊水地
9月15日 千歳市と長沼町の堺、デントコーン畑	11月2日 長沼町上空(6号基線)
9月17日 舞鶴遊水地	
9月19日 根志越遊水地	
9月20日 根志越遊水地	
9月28日 根志越遊水地	
9月29日 根志越遊水地	
9月30日 根志越遊水地	



タンチョウも住めるまちづくり検討協議会における検討体制（案）

資料3

■本協議会

【目的】多様な主体の連携と協働による「舞鶴遊水地を軸としたタンチョウも住めるまちづくり」の取組を通じて、にぎわいがあり、経済の好循環が実感できる地域の実現する

座長：中村 太士（北海道大学）

事務局：札幌開発建設部、長沼町（運営補助：日本生態系協会）

構成員：有識者、関係行政機関（空知総合振興局、北海道地方環境事務所等）、町関係団体、NPO、企業等

オブ：千歳川流域市町、その他関係行政機関

- 『タンチョウも住めるまち』のあり方検討、取組方針の策定
- 取組方針に沿った専門部会の構築
- 専門部会での検討結果報告、新たな課題等の検討

■長沼町 タンチョウとの共生検討会議

委員長：赤坂 猛（酪農学園大学教授）

事務局：長沼町

構成員：農業、観光、商工会等の町内主要関係者
オブザーバー：札幌開発建設部、環境省、日本生態系協会 他

情報共有

■生息環境専門部会

【目的】タンチョウも住めるまちづくりの推進のため、タンチョウの生息環境を構築する

部会長：中村 太士（北海道大学）

部会員：協議会委員、専門有識者

（検討テーマにより、適切な有識者等を招聘）

事務局：札幌開発建設部、日本生態系協会（サブ：長沼町）

- 遊水地および周辺におけるタンチョウの生息環境構築（当面は営巣を想定）
- 生息環境に配慮した社会ルールの定着方策検討

■地域づくり専門部会

【目的】タンチョウをシンボルとした地域資源を活用し、次の世代につなげる魅力ある地域づくりを検討

部会長：小磯 修二（北海道大学）

部会員：長沼町民代表

（検討テーマにより、適切な有識者等を招聘）

事務局：長沼町、日本生態系協会（サブ：札幌開発建設部）

- 地域資源情報のとりまとめ及び共有
- 各産業による地域資源の活用
- 住民参加の促進
- 環境教育の促進
- 観光交流の促進

WG

※特定の課題については、必要に応じて、WGにおいて機動的な検討が可能な体制とする

WG

検討体制（案）のメンバー構成

平成28年12月15日時点

■タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

	分野	氏名	所属		分野	氏名	所属
	学識者	赤坂 猛	酪農学園大学 農食環境学群 教授		関係団体	成田 正夫	ながめま農業協同組合 代表理事組合長
	学識者	小磯 修二	北海道大学 公共政策大学院 特任教授		関係団体	森下 伸	長沼町観光協会 会長
○	学識者	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授		関係行政機関	貴家 尚哉	千歳川河川事務所 所長
	学識者	正富 宏之	専修大学北海道短期大学 名誉教授		関係行政機関	田口 和哉	環境省 北海道地方環境事務所野生生物課長
	企業等	瀬川 明廣	マオイネットワーク広場		関係行政機関	戸川 雅光	長沼町長
	企業等	見田 義之	株式会社アクティブリンク 代表取締役社長		関係行政機関	藤島 京子	北海道 空知総合振興局 地域創生部長
	関係団体	加藤 幸一	舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会 会長		関係行政機関	宮藤 秀之	北海道開発局 札幌開発建設部 次長
	関係団体	中野 政光	長沼町商工会 副会長	※○は座長、敬称略、各分野ごとに50音順			

■生息環境専門部会

事務局：札幌開発建設部、日本生態系協会、（長沼町）

	氏名	所属
	赤坂 猛	酪農学園大学 農食環境学群 教授
	貴家 尚哉	千歳川河川事務所 所長
	新目 竜一	寒地土木研究所 上席研究員
	田口 和哉	環境省 北海道地方環境事務所野生生物課長
○	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
	藤巻 裕蔵	帯広畜産大学 名誉教授
	正富 宏之	専修大学北海道短期大学 名誉教授
	宮藤 秀之	北海道開発局 札幌開発建設部 次長
	矢部 和夫	札幌市立大学大学院 デザイン研究科 教授
	矢部 浩規	寒地土木研究所 上席研究員

※○は座長、敬称略、50音順

■地域づくり専門部会

事務局：長沼町、日本生態系協会、（札幌開発建設部）

	氏名	所属
	伊藤 隆弘	アート協会会長／彫刻家
	金澤 睦司	「ハイジ牧場」場長
	黒田 泰明	生涯学習推進協議会委員／社会教育委員／農業者
○	小磯 修二	北海道大学 公共政策大学院 特任教授／協議会委員
	駒谷 信浩	長沼町観光協会理事／農業者
	市東 保子	女性連絡協議会会長／生涯学習推進協議会委員／社会教育委員
	渋谷 桃子	商工会女性部理事
	野々川 美由紀	生涯学習推進協議会委員／社会教育委員／介護福祉士
	萩 薫	（株）萩工務店／スポーツ少年団本部事務局長
	東山 哲智	生涯学習推進協議会委員／農業者
	増田 健司	合同会社マスケン 代表
	水越 和恵	生涯学習推進協議会委員／社会教育委員／元英語教員

※○は座長、敬称略、50音順

※各専門部会は、検討テーマにより、適切な有識者等を招聘可能とし、検討協議会委員は、アドバイザーとして自由参加

生息環境専門部会（仮称）の設置について

平成 28 年 12 月 15 日

1. 設置目的 等

「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会」規約第 5 条 4 の規定に基づき、タンチョウも住めるまちづくりの推進を図るため、タンチョウの生息環境を構築することを目的に設置する。

なお、専門部会の運用については、協議会の規約に準ずる。

2. 検討事項（案）

- ①遊水地および周辺におけるタンチョウの生息環境構築
（当面は営巣を想定）
- ②生息環境に配慮した社会ルールの定着に向けた方策検討

3. 構成員

赤坂 猛	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類 生物多様性保全研究室 教授
貴家 尚哉	札幌開発建設部 千歳川河川事務所 所長
新目 竜一	寒地土木研究所 水環境保全チーム 上席研究員
田口 和哉	環境省 北海道地方環境事務所野生生物課 課長
○中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 森林生態系管理学研究室 教授
藤巻 裕蔵	帯広畜産大学 名誉教授
正富 宏之	専修大学北海道短期大学 名誉教授
宮藤 秀之	札幌開発建設部 次長
矢部 和夫	札幌市立大学大学院 デザイン研究科 教授
矢部 浩規	寒地土木研究所 寒地河川チーム 上席研究員

※○は座長、敬称略、50 音順

※事務局は、札幌開発建設部（事務局補助：長沼町／運営補助：日本生態系協会）

※検討テーマにより、適切な有識者等を招聘可能とし、検討協議会委員は、アドバイザーとして適時に出席できるものとする。

地域づくり専門部会（仮称）の設置について

平成 28 年 12 月 15 日

1. 設置目的 等

「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会」規約第 5 条 4 の規定に基づき、タンチョウも住めるまちづくりの推進のため、タンチョウをシンボルとした農産業・観光施策を展開する。

なお、専門部会の運用については、協議会の規約に準ずる。

2. 検討事項（案）

以下の取組により、タンチョウをシンボルとした地域資源を活用し、次の世代につながる魅力ある地域づくりについて検討を行う。

- ・地域資源情報のとりまとめ及び共有 ・各産業による地域資源の活用
- ・住民参加の促進 ・環境教育の促進 ・観光交流の促進

3. 構成員

伊藤 隆弘	アート協会会長／彫刻家
金澤 睦司	「ハイジ牧場」場長
黒田 泰明	生涯学習推進協議会委員／社会教育委員／農業者
○小磯 修二	北海道大学 公共政策大学院 特任教授
駒谷 信浩	長沼町観光協会理事／農業者
市東 保子	女性連絡協議会会長／生涯学習推進協議会委員／社会教育委員
渋谷 桃子	商工会女性部理事
野々川美由紀	生涯学習推進協議会委員／社会教育委員／介護福祉士
萩 薫	（株）萩工務店／スポーツ少年団本部事務局長
東山 哲智	生涯学習推進協議会委員／農業者
増田 健司	合同会社マスケン代表
水越 和恵	生涯学習推進協議会委員／社会教育委員／元英語教員

※○は座長、敬称略、50 音順

※事務局は、長沼町（事務局補助：札幌開発建設部／運営補助：日本生態系協会）

※検討テーマにより、適切な有識者等を招聘可能とし、検討協議会委員は、アドバイザーとして適時に出席できるものとする。

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

～協議会の取組方針(案)～

タンチョウも住めるまちづくりについて

『タンチョウも住めるまちづくり』とは…

- ① タンチョウは『長沼町の目指す姿』に先進的、モデル的な意味を持たせるシンボリック存在
- ② タンチョウに選ばれるまち
＝ 物理的な生息環境 ＋ 良き隣人として迎える住民意識

上記前提を踏まえた上で、他自治体のモデルケースとするため、
以下の実証的取組を推進

遊水地を軸とした
タンチョウ生息環境構築

タンチョウを活かした
環境教育・市民参加促進

タンチョウをシンボルとした
農産業・観光施策の促進

(参考) 長沼町の目指す姿 ～ひと・緑がかがやく 田園と交流のまち～

※第5期長沼町総合振興計画より引用

■具体的に目指す姿の3つの方向性

安全に安心して
暮らせるまち

自然環境と
調和したまち

来てみたい・
住んでみたいまち

タンチョウも住めるまちづくりに向けた取組方針（案）

【目的】整備後の舞鶴遊水地の利活用を通じた、舞鶴遊水地及び周辺地域における「タンチョウも住めるまち」の実現

【計画期間】平成28年度（2016年度）から平成32年度（2020年度）まで

【将来像】長沼町全域における「タンチョウも住めるまち」の実現

■ タンチョウも住めるまちづくり検討協議会（事務局：札幌開発建設部、長沼町／運営補助：日本生態系協会）

平成28年度			平成29-31年度	平成32年度 （目標年次）
〔第1回〕9/6	〔第2回〕12/15	〔第3回〕2月下旬	〔協議会は年1回程度、専門部会は年1～2回程度（別途WG）開催〕	タンチョウも住める まちづくりの推進
協議会設立	〔現地視察会〕10/7		新たな課題等の検討	
『タンチョウも住めるまち』のあり方検討			（必要に応じて）検討方針の改定・変更	
取組方針（案）の提示		方針策定		
	検討体制の構築	専門部会での検討結果報告		

■ タンチョウも住めるまちづくりの取組方針（案）（【 】は予想される検討・実施主体（案））

検討体制	取組方針	平成28年度	平成29-31年度	平成32年度 (目標年次)
生息環境 専門部会	舞鶴遊水地を軸としたタンチョウの生息環境構築及び環境教育の推進 【札幌開発建設部、生息環境部会】	《生息環境の構築》 営巣環境の評価	モニタリング計画の検証 営巣に資する地内の環境整備	タンチョウの 営巣
		越冬可能環境調査	採食環境調査(遊水地内の採食資源量の把握) タンチョウの生息に伴う社会的影響の評価と対策検討・実施	
連携		《社会ルールの構築》 遊水地の利活用ガイドライン(案)の策定【環境省 等】	食害や鳥インフルなどに対する理解の普及方策検討 地域の環境教育を主導するリーダーの育成方策検討	対流促進型の 地域形成
		《市民・企業参加、産業振興施策 等》 地域資源情報のとりまとめ及び共有 環境教育の促進 住民参加の促進	各産業による地域資源の活用(農産物のブランド化含む) 観光交流の促進	地域経済の 活性化

生息環境専門部会の取組方針（案）

■生息環境における現状と目標（案）

<現 状>

- タンチョウの飛来が累次に確認
- フトイ、ガマ、ヒメガマ等の多年生抽水植物（高茎）が群落
- 湿地区分の大半はフトイ群落。パッチ状にヨシ群落
- タンチョウに配慮した社会ルールが未定着



<目 標(案)>

- ◆ 舞鶴遊水地におけるタンチョウの営巣
- ◆ 採食場の創出（開水面、水深、隠れ家等）
- ◆ 営巣場の創出（ヨシ等の巣材、多様な植生環境等）
- ◆ タンチョウの生息に配慮したガイドラインなどの社会ルールの定着

■短期的な取組方針

- ✓ 営巣環境としての評価及びモニタリング
- ✓ 越冬可能環境の調査（遊水地周辺も含めた越冬環境の調査）
- ✓ タンチョウ生息に配慮した遊水地の利活用ガイドライン（案）の策定

■中期的な取組方針

- ✓ タンチョウの営巣環境の構築方策の検討
- ✓ 採食環境の調査（遊水地内の採食資源量の把握）
- ✓ タンチョウの生息に伴う社会的影響の評価と対策の検討・実施
- ✓ 食害や鳥インフルエンザ等に対する理解の普及方策の検討
- ✓ 地域の環境教育リーダーの育成方策の検討

■ 長期的課題

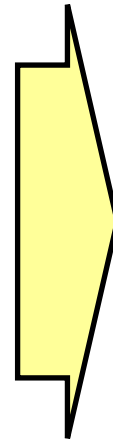
- 広域的な営巣環境の把握
- 流域の生息分布の把握・変遷
- 遊水地周辺の採食資源量の把握 等

地域づくり専門部会の取組方針（案）

■地域づくりにおける現状と目標（案）

<現 状>

- 札幌、新千歳空港に近い
- 交通の要所にある道の駅マオイの丘公園
- 道内有数の農業地帯
- グリーンツーリズム特区
- 石狩平野を一望する景観
- タンチョウも来るほど豊かな自然環境
- 元気な高齢者、中間層、子ども達



<目 標(案)>

- ◆ 子ども達が地元を誇りに思う
- ◆ 一人一人の住民が活躍する
- ◆ 地元で良いものを作り、高く買ってもらう
- ◆ 沢山の人に来てもらう／知ってもらう
- ◆ 地域の資源・財産を次の世代につなげる

■目標達成に向けた検討の論点、取組事例

学ぶ

- ✓ 地域の資源・財産とその価値を学ぶ
- ✓ 先進地の事例から学ぶ

12/10意見) 農薬について考える、先進地を見に行こう 等

挑戦する

- ✓ どんどん試しにやってみる
- ✓ 目標と比較検証し、次につなげる

12/10意見) 遊水地映像の配信、環境保全型の農業 等

仲間をふやす

- ✓ 身近な人や子ども達に話してみる
- ✓ 興味を持ってくれそうな人に声をかける

12/10意見) 取組の情報発信、子ども達に見せる 等

楽しむ

- ✓ それぞれの企画を楽しむ
- ✓ 昨日よりも成長する

12/10意見) 地上絵(田んぼアート、スノーメッセージ) 等

協議会として早期に対応すべき事項（案） （タンチョウ飛来に備えた配慮措置）

1. 経緯

舞鶴遊水地周辺では、平成 28 年夏季にタンチョウ等の大型水鳥が累次にわたり飛来し、多数の観察者等が確認された。その際、写真撮影のため、観察者が過度に接近を試みたところ、タンチョウが警戒し飛び去った事案が報告されている。

当地は、札幌圏からのアクセスが良好なため、引き続き、観察者等による干渉の懸念がある。また、道央圏では、タンチョウの捕食者となるアライグマの生息が確認されており、アライグマの防除策も喫緊の課題である。

今後、安定的にタンチョウが定着できる環境を構築するためには、協議会として早期に対応すべき事項を整理し、順次着手する必要がある。なお、当地におけるタンチョウの生息は初期段階であるため、とりわけ生息環境への配慮が求められている。



2. 実施内容 例

（1）観察者等の干渉回避措置例

1. 来訪者に対する配慮情報の発信等
 - ・各種広報媒体に広告や記事を掲載して、注意情報を発信する。
 - ・遊水地入り口などに注意看板を設置し、配慮事項を掲示する。
2. 関連団体との協力連携
 - ・地元の活動団体や野鳥の会、猟友会などと協議のうえ、必要な協力連携を図る。
3. 監視員の配置（巡視）
 - ・近隣関係者等と協力連携体制を構築し、見回り等を実施する。
4. 立入禁止の措置
 - ・遊水地内もしくは堤防天端への進入禁止措置を図る。
5. 保護区域等の指定（条例等）
 - ・関係機関と協議のうえ、鳥獣保護区など法的な規制区域を設ける。

（2）アライグマによる捕食回避措置例

1. 生態や効果的な対応措置の整理
 - ・有識者等へのヒアリングおよび文献調査により対応措置を整理する。
2. 舞鶴遊水地周辺における生息数や密度等の生息実態把握
 - ・河川事務所の調査を活用しつつ、関係機関や地域住民等へ聞き取り調査を行う。
3. 侵入防止・捕獲、移動経路等の特定
 - ・トタン板・電牧、箱ワナ・誘引トラップ等の構造物設置を設置する。
 - ・痕跡調査（食痕等）、電波発信機装着個体の追跡等を実施する。

3. 今後の対策（案）

（1）干渉回避

■2月上旬：町内広報等に情報掲載

「舞鶴遊水地における鳥類生息の紹介／優しく見守って下さい／車
内観察を徹底してください」

■2月上旬：看板設置

「鳥類生息地です／優しく見守って下さい／車内観察を徹底してく
ださい」

■4月上旬：（必要に応じて）立入規制、巡回等の実施

■中長期：区域等の指定

（2）アライグマ対策

■1月中旬：有識者等へのヒアリング

■（未定）：実施可能な対策の検討

4. その他

- 今後発生する諸課題の中には、早急な対策・実行が求められる案件も想定される
ところ、緊急対応が必要な場合には、有識者の適切な助言を得たうえで、関係者
の合意を得て実施する。なお、協議会委員へは、電子メール等を活用して報告す
るものとする。
- 全国的に鳥インフルエンザの発生が頻発しているところ、本協議会においても、
早急な検討が求められている。詳細については、追って議論したい。

■（参考）他地域における対策事例

（１）観察者等の干渉回避措置

1. 来訪者に対する配慮情報の発信等

徳島県鳴門市の吉野川流域では、コウノトリ（特別天然記念物）が2015年より営巣を開始し、国内では円山川流域（豊岡市等）に次いで、国内2地域目の野生復帰自然繁殖地となった。2016年にはコウノトリの野生復帰以降では豊岡市域以外では初めて産卵まで至り、ペアの定着と継続的な繁殖が期待されている。

そこで、地元農業団体や大学、鳴門市、徳島県などで構成される「コウノトリ定着推進・連絡協議会」では、看板の設置によりコウノトリ観察マナーを呼び掛け、マナーの普及を実施している。

（徳島県鳴門市・コウノトリ）



新潟県佐渡市では、長年トキの保護に取り組み、日本産のトキが野生絶滅（1981年）して以降もトキが野外で生息できる環境を目指してきた。人工増殖したトキを2008年に放鳥してからも、全島でトキを優しく見守り共存することを目指し、観察マナーの普及のための看板設置などを行っている。

（新潟県佐渡市・トキ）



北海道むかわ町では、数年前からタンチョウが定着して、営巣も確認されている。この地域では、タンチョウを観察する人などに向けて、「車から降りず、近づかないで遠くから見守ること」などマナーの普及を呼び掛けている。その一環として、町の広報誌へタンチョウへの配慮について「町民へのお願い」を掲載するなどして普及に努めている。また、むかわ町では、タンチョウが生息している情報を秘匿して限られた関係者によって保護する方法から、情報を積極的に知らせる地域全体で見守る方法に転換することで効果を上げている。

（北海道むかわ町・タンチョウ）

2. 関連団体との協力連携

四国各地ではナベヅル・マナヅル（天然記念物）の群れ計 300 羽が、2015-2016 年に飛来、越冬した。出水平野（鹿児島県）への一極集中を解消する新越冬地の形成が 10 年来の国家目標として取組まれてきた経緯から、国内外より大きな注目を浴びている。

四万十川水系の河川周辺では、地元の団体を中心に長年にわたり観察マナー普及のための活動が実施されている。その成果もあり、2015-2016 年の越冬期には、この地域でも数百羽の渡来が確認された。しかし、猟期に入り付近で発砲が行われたことから、ツルの群れは飛去してしまった。このような状況をうけ、地元の野鳥の会では猟友会と連携し、各県の窓口で行われる狩猟者登録手続きの際に「配慮のお願い」文書の手交を依頼している。

（高知県四万十市など・ツル類）

3. 監視員の配置（巡視）

マナー違反を防いでタンチョウの生息環境を地域全体で見守る一環として、住民の有志が「むかわタンチョウ見守り隊」としてパトロールなどの活動をしている。タンチョウを観察する人などに向けて、「車から降りず、近づかないで遠くから見守ること」などマナーの普及を呼び掛けている。

（北海道むかわ町・タンチョウ）

4. 立入禁止の措置

鹿児島県出水市の荒崎地区等の干拓地は、ナベヅルおよびマナヅルの生息地として国指定出水・高尾野鳥獣保護区特別保護地区及び、国の特別天然記念物（鹿児島県のツル及びその渡来地）に指定されている。当地では、ツルの飛来が増加し観察者が増えることで、野鳥による農業被害、高病原性鳥インフルエンザのリスク、交通渋滞などの不利益も増えることに対し、一般車両の干拓地への立入規制の実施などを検討している。今年度は試験的实施（社会実験）として 2 日間の立ち入り規制実施を予定しており、観光資源としての価値向上や、新たな客層が生まれること等も含めて、将来的な実施期間や範囲の拡大を検討している。

（鹿児島県出水市・ツル類）

5. 保護区域等の指定（条例等）

コウノトリの営巣が確認された徳島県では、コウノトリが定着・繁殖できる環境を確保するため、生息地周辺 490 ヘクタールを「コウノトリ鳥獣保護区」に指定した。指定区分は、絶滅のおそれのある希少な鳥獣の保護を目的とした「希少鳥獣生息地の保護区」で、県内では初めて指定された。区域内での鳥獣の捕獲は禁止され、当該区域の静寂が保持されることで、コウノトリをはじめ鳥類の生息環境が保全された。

（徳島県鳴門市・コウノトリ）

長沼白熱教室 Let's make NAGANUMA better for our children

子どもたちのため、舞鶴遊水地やタンチョウを活用し より魅力ある地域づくりを考える意見交換会を実施

- 開催日時：平成28年12月10日（土） 10：15～12：15
- 実施場所：ながめま温泉 別館3階 37号研修室
- 参加者：約30名（協議会委員、長沼町民代表、
長沼町、札幌開発建設部、日本生態系協会 等）



開催状況

長沼白熱教室の様子

冒頭「舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会」の加藤会長から「皆さんと相談しながら、よりよい遊水地の利活用と子どもたちの将来のために活動していきたい」との挨拶がありました。その後、協議会の取組経緯、舞鶴遊水地及びタンチョウとの関わり方についての意見交換、希少鳥類を活用した地域づくり先進事例の報告（兵庫県豊岡市、新潟県佐渡市、北海道鶴居村）を行いました。

意見交換会

「次の世代の子どもたちのため、地域資源を活用し、長沼町をより魅力あるまちにする方策」をテーマに、4班に分かれてグループディスカッションを行いました。

- 子どもたちの教育に止まらず、広い世代の協力者を増やすことが重要
- 農業者自らが先進事例を学び、意識改革することが必要
- 農業者・消費者それぞれが本物志向になることが重要
- 農業について考える良い機会になるのでは
- 環境を守りつつ農業に取り組む姿を子どもたちに見せることで、魅力ある環境保全型農業の取組を進めていくことができるのでは
- 反対される方には、意見を受け止めつつ、丁寧に対応することが重要。
- タンチョウも住める自然環境、社会環境をつくることが重要 等

小磯先生からは、「農業者の取組との関わり方が大きなキーワードとして出てきた」、「先進事例から何を学ぶのか、今日のような場を通じ、学ぶ視点・姿勢を身につける事が重要」との講評がありました。



加藤会長の挨拶



先進事例の紹介



4班に分かれたグループディスカッションと発表の様子



小磯委員の講評

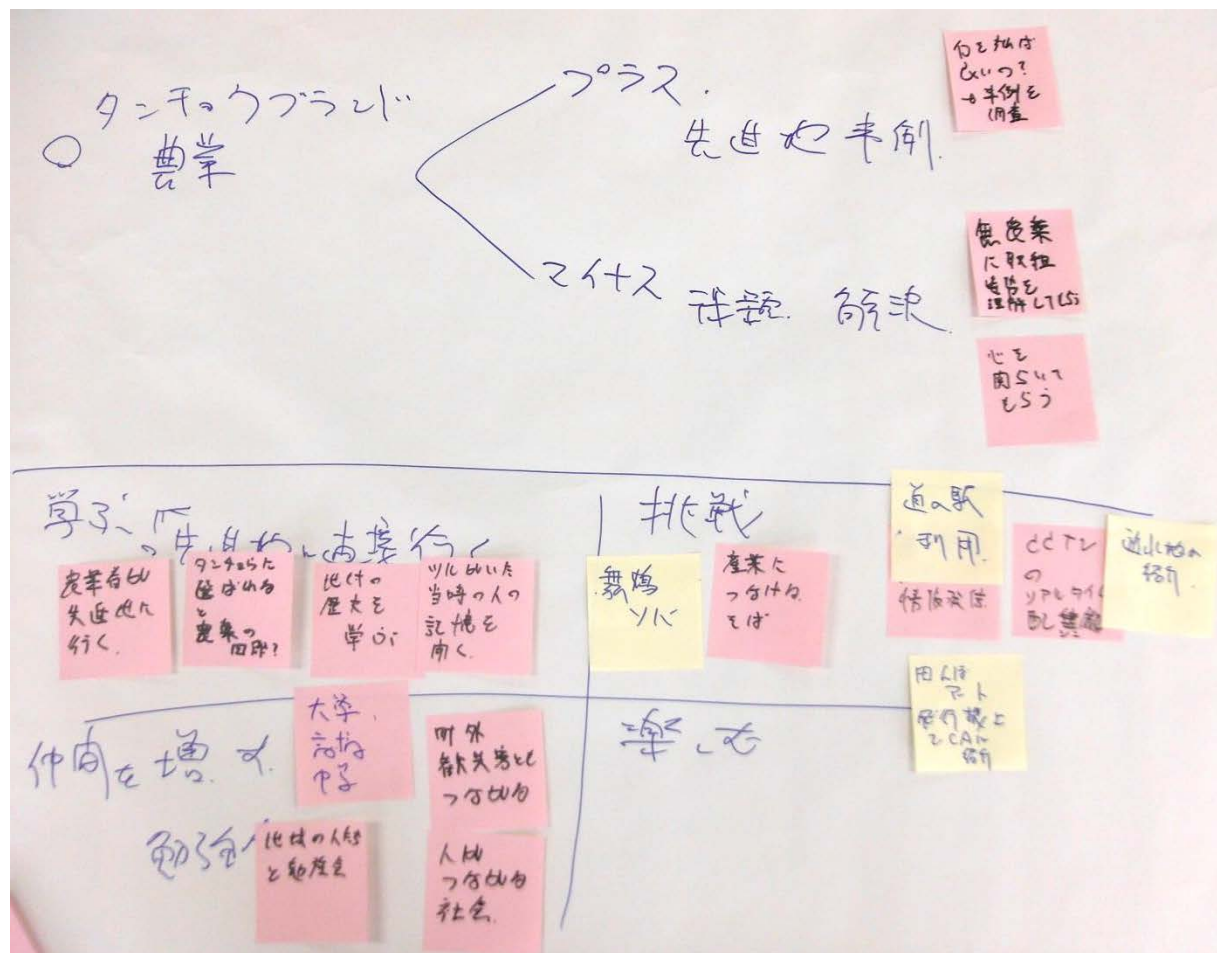


戸川町長の閉会挨拶

議論内容

■主な意見

- ・ 飛行機も飛んでいるので空から見える風景に
- ・ 田んぼアートなどもやりたい
- ・ 特色ある長沼産、舞鶴そばに挑戦したい（熟成そば）



長沼白熱教室 意見交換会（B班）

議論内容

タンチョウのエサ場となる自然環境づくりに加え、社会環境づくりも重要。観察施設やレストランを整備してはどうか。農薬を考える良い機会になるのではないかな。教育は、子どもたちのため長沼町の未来のために、町民全体の意思疎通を図りつつ進めることが重要。

主な意見

環境

- 餌付けは必要ないが、採食場となる自然環境づくりは必要
- タンチョウをシンボルとした社会環境づくりも重要
- タンチョウ生息を見守る際のルールづくりも必要

観光

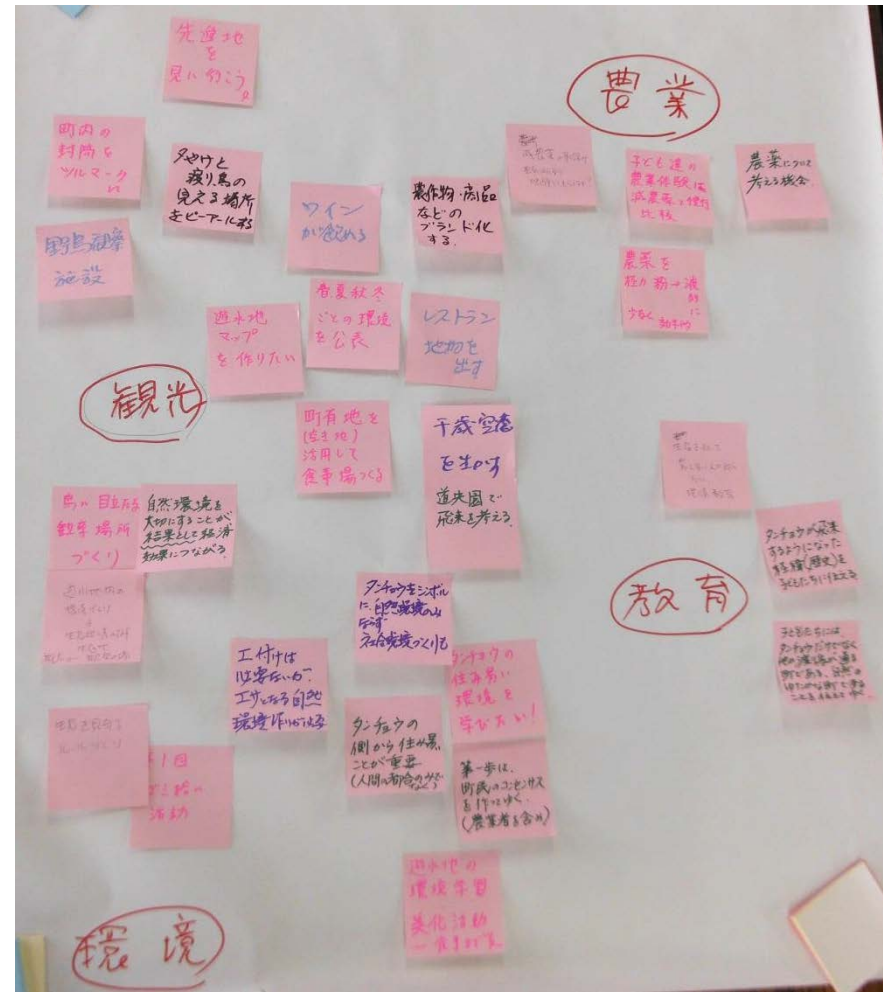
- 新千歳空港が近い事を活かし、道央圏で飛来を考える
- 観光客向けにレストランを作っては。ワインを飲める場所も
- 鳥には目立たない観察場所ができると良い
- 先進地を見に行こう

農業

- 農薬を考える良い機会になるのではないかな。
- 減農薬は簡単にはできないかもしれないが、よりよい農業との重なる部分があれば

教育

- タンチョウが飛来するようになった経緯を伝える
- 元々多数の渡り鳥が訪れる環境があることを伝える



長沼白熱教室 意見交換会（C班）

議論内容

遊水地周辺には農業者が多い。タンチョウと農業との共存は乗り越えるべき課題。減農薬はアピールになる反面、手間とコストがかかる。この取組の発起人は農家であるため、知恵を絞って取組みが進むことが期待できる。良い物を作り、高く買ってもらう本物志向への理解が必要。環境保全型農業に真摯に向き合う姿を子どもたちに見せることで、取組を前に進めることができるのではないか。

主な意見

農業とタンチョウの共生

- ・ 地域には農家が多く、農業との関係は切っても切れない
- ・ 減農薬の必要性は理解されるだろうが、農業者には農薬を使う権利もある

農家もいろいろ知恵を絞って取組を

- ・ 発起人が農家であることが救い
- ・ 機械化など効率化の創意工夫
- ・ 新規就農を増やして減農薬の担い手確保
- ・ 減農薬がアピールポイントとなり農家のモチベーションになれば

取組の広がり

- ・ 真摯に取組み、それを理解してもらいたい
- ・ 本物を高く販売する（付加価値を）
- ・ 一生懸命やっている農家の姿を子どもたちに見せたい
- ・ 環境保全型の魅力的な農業地域にしたい

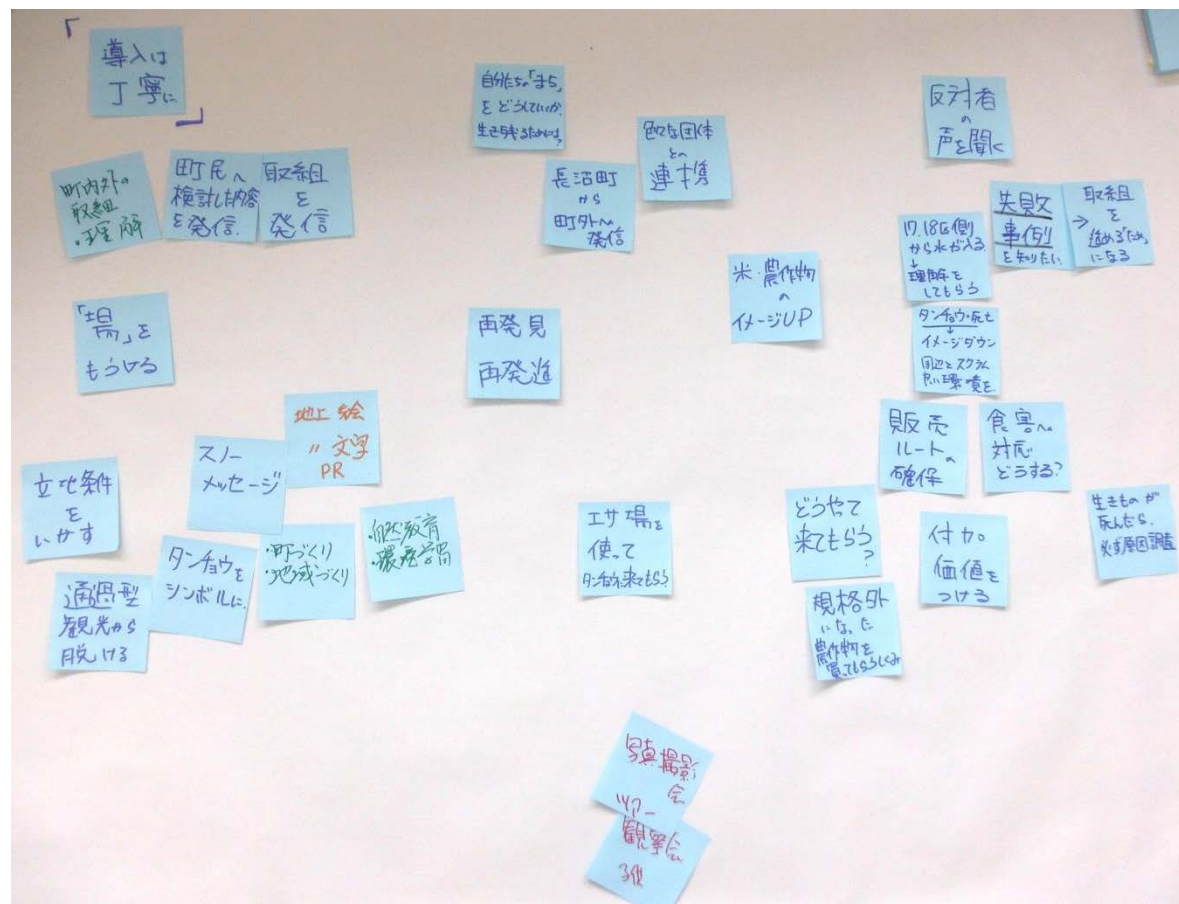


議論内容

■ 主な意見

- ・ タンチョウというキーワードについて地元でも、まだ理解に温度差がある
- ・ 取組の情報をしっかりと発信する
- ・ 分かり易くかつ着実に進めるスピード感
- ・ 反対者の意見も真摯に受け止める
- ・ 農業では食害などの経済的な損失との折り合いが課題（補償の仕組みなどの整備も）
- ・ 町内の団体の連携に加え、町外や関係行政との協力も必要

- ・ 米や農産物のイメージアップ
- ・ 空港から近い立地を活かして情報発信
- ・ スノーメッセージ(地上絵)など楽しむイベント
- ・ タヤけの長沼町をアピールし、通過型観光から脱する



タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 現地視察会

魅力あるまちづくりにむけて 現地視察会 ～タンチョウが飛来する舞鶴遊水地～

- 開催日時：平成28年10月7日（金） 9：00～13：00
- 実施場所：舞鶴遊水地、道の駅マオイの丘公園、長沼町役場
- 参加者：約50名（協議会委員、企業関係者、町内農業者、長沼町、札幌開発建設部、日本生態系協会 等）



舞鶴遊水地の視察状況



道の駅マオイの丘公園の視察状況

現地視察の様子

参加者約50名で舞鶴遊水地、道の駅マオイの丘公園に加え、当日朝にタンチョウの飛来が確認された箇所を視察しました。

舞鶴遊水地や長沼町にある施設等の説明のほか、正富委員からタンチョウの生態、加藤委員から最近のタンチョウの飛来状況について説明がありました。

意見交換会

小磯委員による他地域の事例を交えた講話のあと、舞鶴遊水地やタンチョウを活かした地域づくりについてグループディスカッションを行いました。

- 拠点施設やフットパス整備など人を呼べる工夫が必要
- 環境教育、学習の場（教材）として活用したい
- 町内外のアーティストとの連携や写真コンテストなどを開催したい
- タンチョウをシンボルとした農産物ブランドづくりを進めたい
- 写真撮影、野鳥観察などのルール作りが必要
- タンチョウが好むような豊かな自然環境にしたい
- 取り組む仲間を増やし、活動の輪を広げたい

等

中村座長からは、「地域の人たちのいろいろなアイデアが出てきたことは貴重」、「住民の力による地域づくりを長沼町から発信していければいい」との総括がありました。



意見交換会の状況



小磯委員からの講話
『タンチョウとの共生による地域の
新たな経済価値創出に向けて』



参加者が5グループに分かれたグループディスカッションの様子

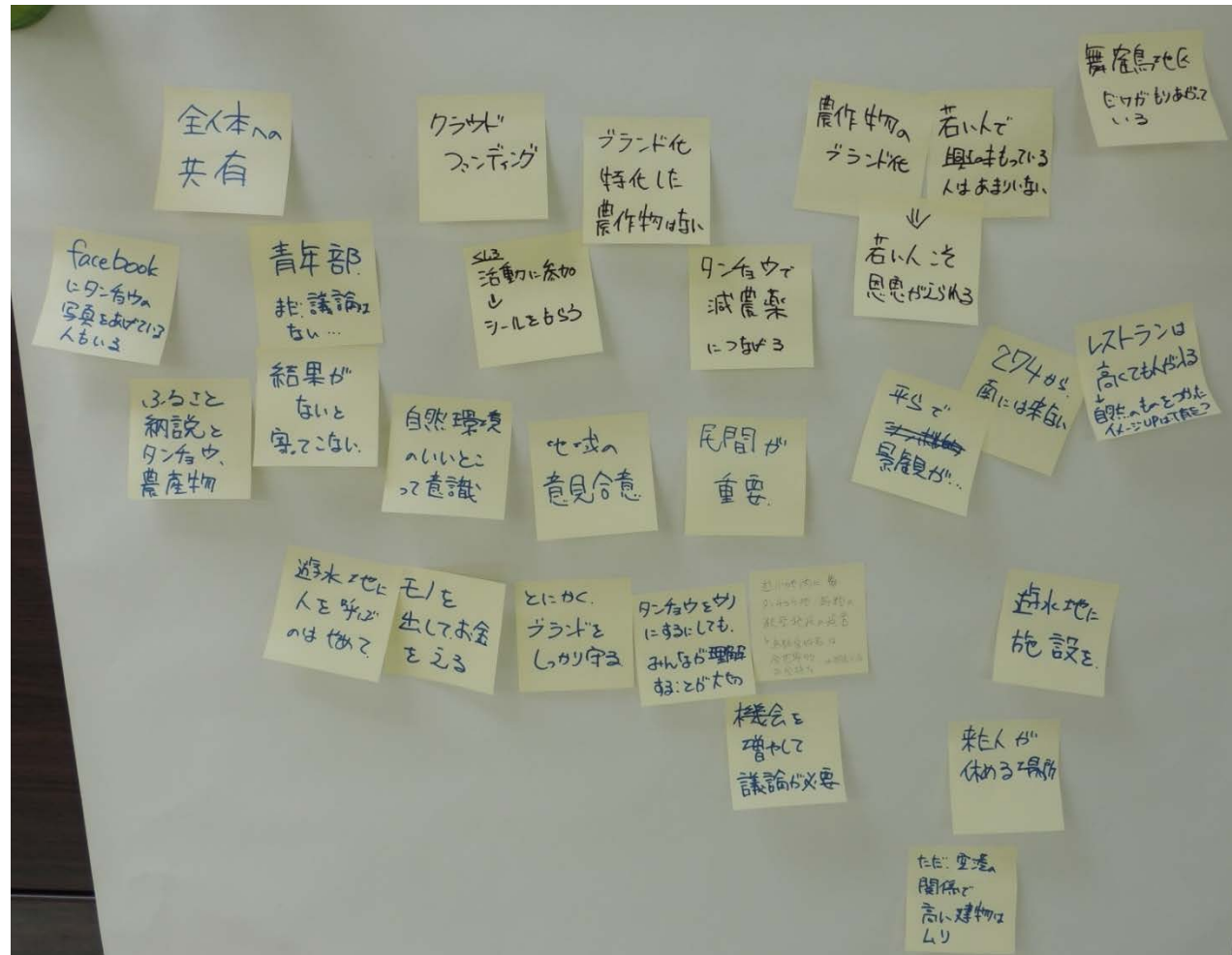
タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 意見交換会（1班）

議論内容

地域の中でも温度差があるので、取り組みを広げるために、議論の機会を増やし合意を得ることが大切。具体的な施策として、遊水地に人を呼ぶためのハード整備、農産物のブランド化と販売、活動参加へのシンボルマーク配布などが挙げられる。ふるさと納税やクラウドファンディング活用による資金集めも必要。

主な意見

- ・ 若い農業者で興味を持つ人は少ない
- ・ タンチョウをウリにするにしても、皆が理解する事が大切
- ・ 興味を持ってもらうために、機会を増やして議論が必要
- ・ 長沼町では、色々な農作物を作っているが、ブランド化し特化したものはない
- ・ 農産物のブランド化は、若い効果こそ恩恵を受けられる
- ・ ふるさと納税とタンチョウ、農作物を絡める
- ・ 観察したり、休息できる施設が必要
- ・ 活動への参加マークを活用し、企業間の差別化を図る
- ・ 遊水地に人を呼ぶのではなく、モノにお金を払ってもらう
- ・ 取り組みを進めるための手法として、クラウドファンディングの利用



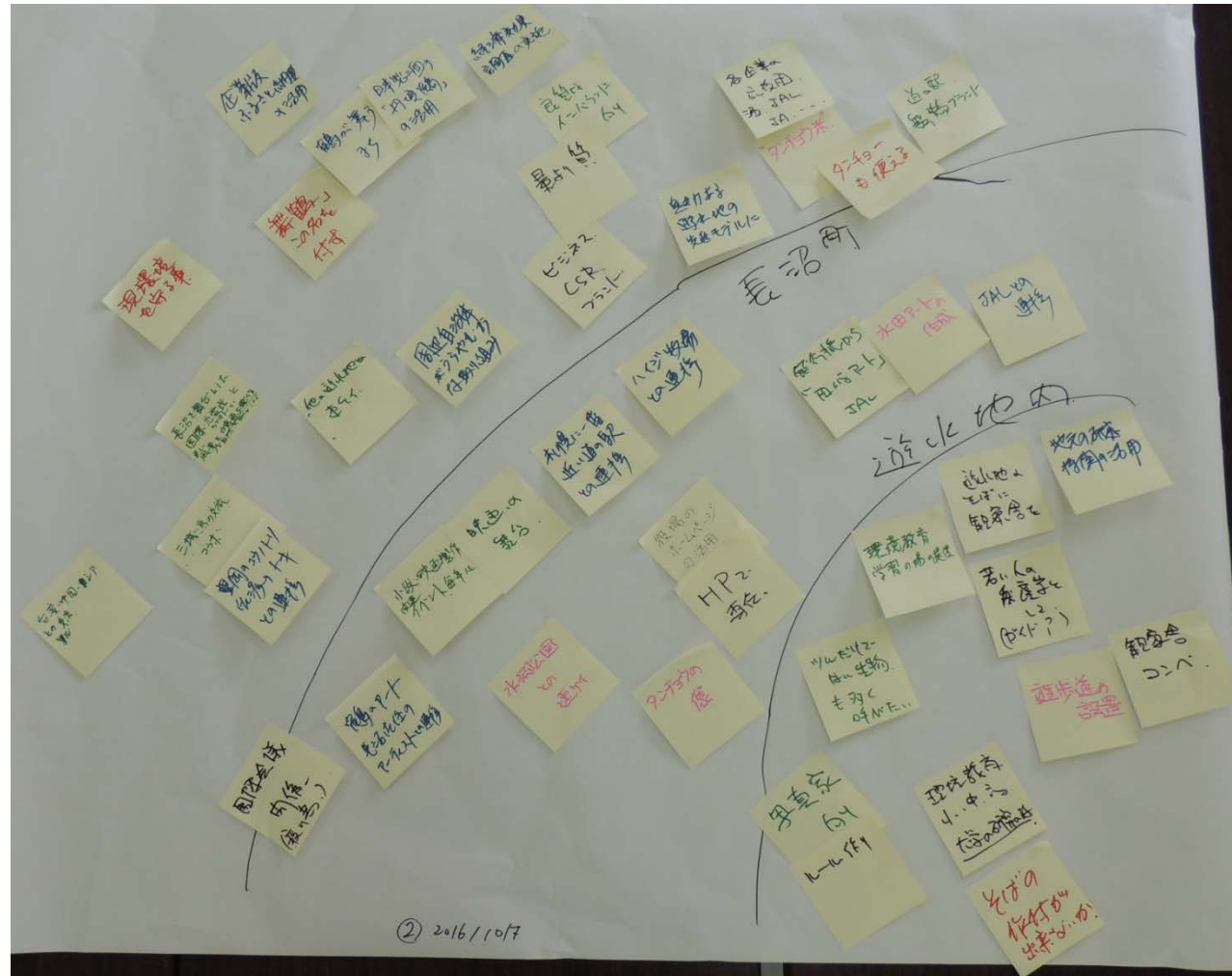
タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 意見交換会（2班）

議論内容

この取り組みは、遊水地内、長沼町内、町外へと広がっていく。遊水地の施設を充実させつつ、町内外の多様な主体と連携しながら情報発信をしていきたい。また、他の遊水地の先進事例となるよう、企業応援団の設置や豊岡市、佐渡市など国内先進地域との連携、他国との交流もしたい。

主な意見

- ・ 遊水地に遊歩道や観察舎を設置
- ・ 環境教育の場・大学・地域の研究機関等との連携
- ・ 町内の企業や個人との連携
- ・ ガイド等新たな産業創出の場としての活用
- ・ 国際会議の開催
- ・ 企業応援団の設置
- ・ 飛行機内のビデオ、雑誌等での紹介
- ・ 飛行機から見られる田んぼアート
- ・ 長沼町を舞台とした映画の製作
- ・ 企業版ふるさと納税の活用
- ・ 魅力ある遊水地の先進モデルに
- ・ 今の環境を守る
- ・ 豊岡市のコウノトリ、佐渡市のトキとの連携
- ・ 台湾、中国、ロシアとの交流
- ・ 道の駅や新千歳空港内での長沼タンチョウブランドコーナー設置



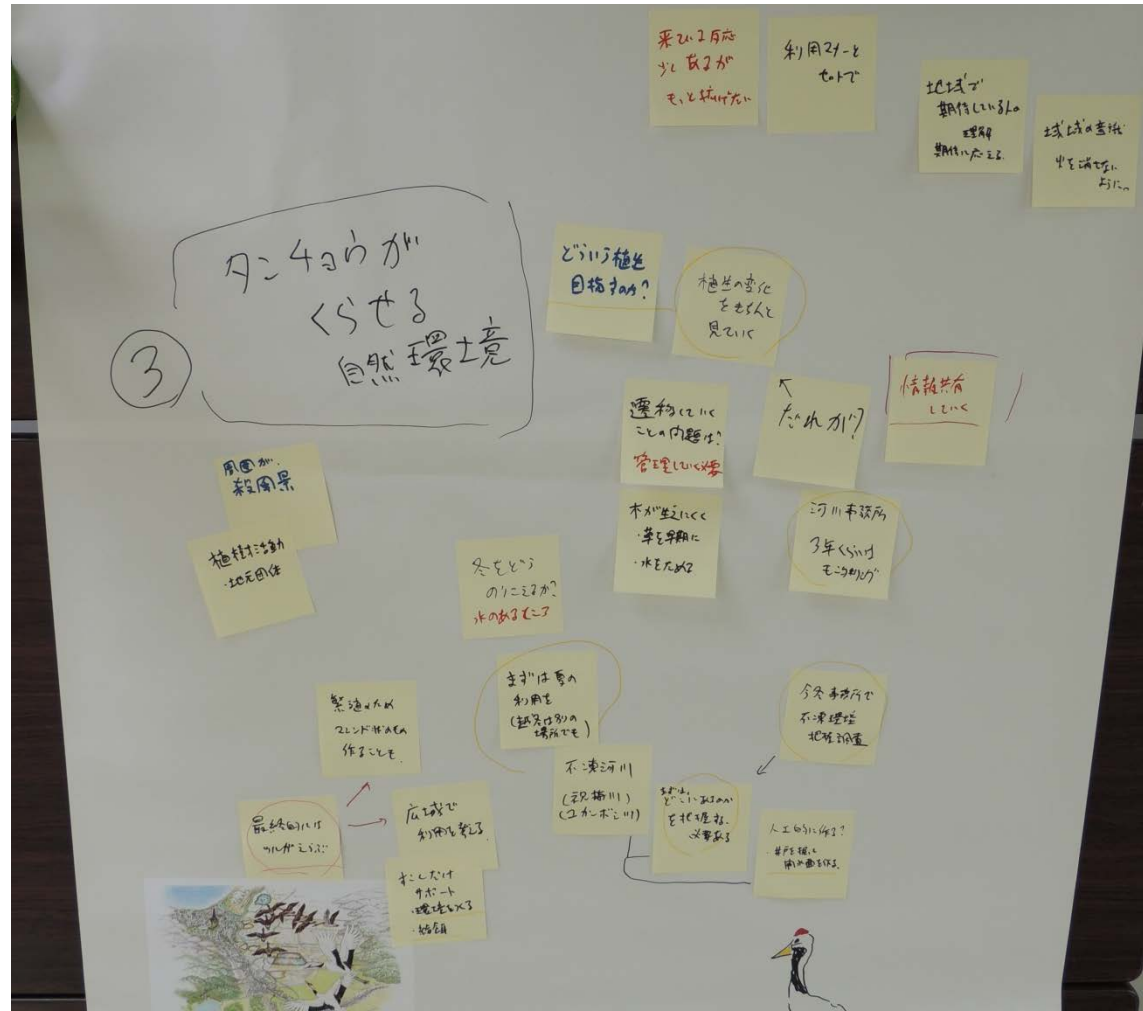
タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 意見交換会（3班）

議論内容

舞鶴遊水地やタンチョウを地域で活用していくための基盤として、タンチョウがくらせる健全な自然環境が重要である。生息環境を守っていくためには、専門家だけで検討するのではなく、地域の意見を反映することが欠かせない。また、各主体での取り組みをきちんと共有して、それぞれの活動に反映させることが効果的である。そのことを実現する体制をきちんと整えていく必要がある。

主な意見

- ・ 遊水地をどういう環境にしたいのか、合意形成が必要
- ・ 管理していく必要がある
- ・ きちんとモニタリングをする
- ・ 情報共有が大切
- ・ 行動圏の広いタンチョウなので、広域で生息可能な環境について考える
- ・ まずは営巣を目標として、周辺で越冬可能な環境を把握しておく
- ・ 現状でどういう環境があるのか、どのように改変できるのか
- ・ 最終的にはタンチョウが選ぶ（選ばれるように頑張る）
- ・ 地域で期待している人がいるので、意識が低下しないように応えていく必要がある
- ・ 利用マナーとセットで自然環境の構築を考えるべき



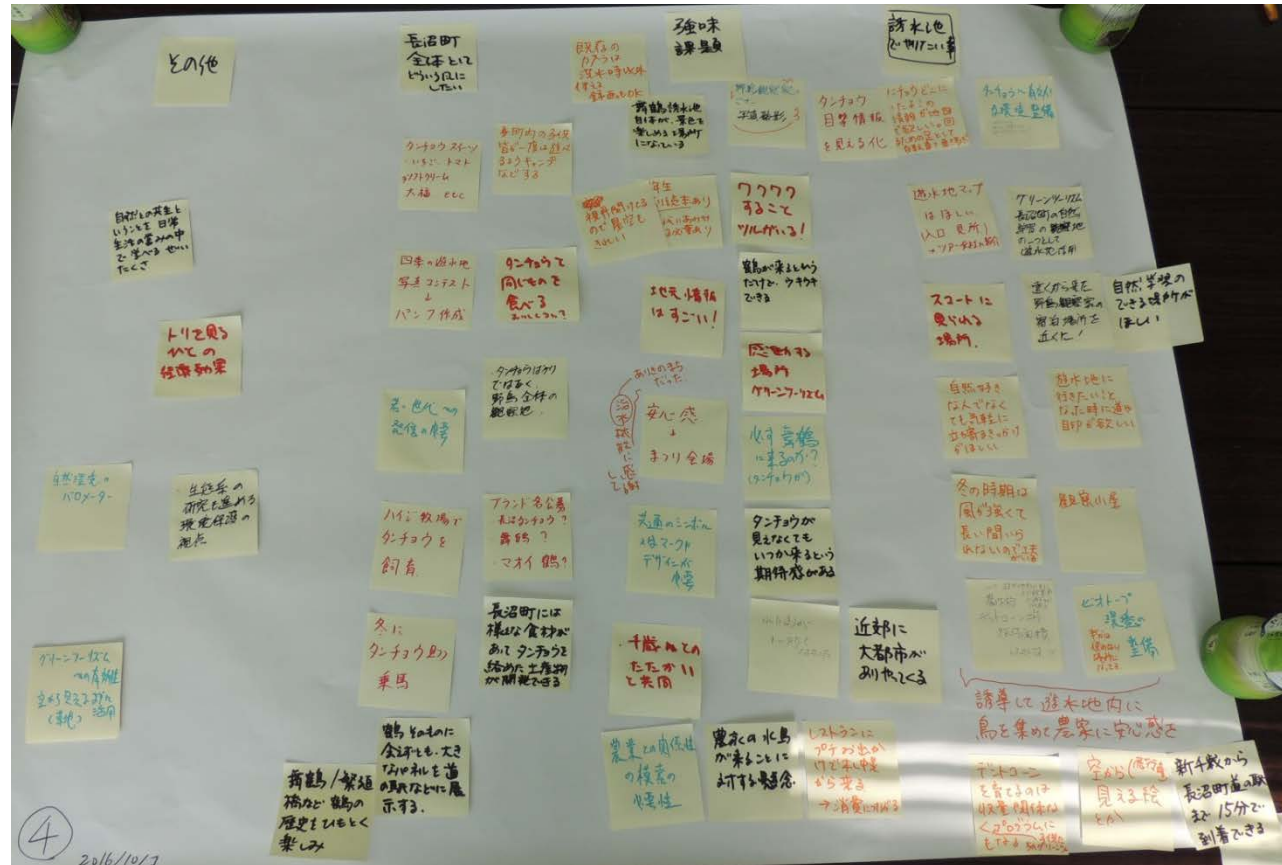
タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 意見交換会（4班）

議論内容

遊水地があることの強み・課題をあげ、実現したい取り組みを整理。都市近郊という強みを活かしたタンチョウ情報の見える化や観察施設整備など、観光推進に取り組む。同時に、地域農家の懸念に配慮し、遊水地に鳥類の採食資源となる作物を作付するなど、ビオトープ整備や環境学習での活用と両立する食害対策を実施。また町の子ども皆がこの場の重要性・希少性を体感できる機会を設ける。

主な意見

- スマートな観察舎や宿泊施設、サインなどの整備
- 景色や星空、キャンプなど野鳥観察以外の魅力も活かす
- 遊水地内の未使用箇所でデントコーンを育て鳥を誘因し、農地の食害を防ぐ
- 遊水地でのデントコーン栽培をグリーンツーのプログラムに活かす
- 採草地を活用し空から見える絵などで地域をPR
- 道の駅でのパネル展や四季の遊水地写真コンテストを行い、パンフレット作成
- 学習の副読本改訂の際にはタンチョウや遊水地を新たに盛り込む
- 若い世代への取組発信が必要
- 観察者・撮影者へのマナーの徹底
- タンチョウに有効な環境整備が必要



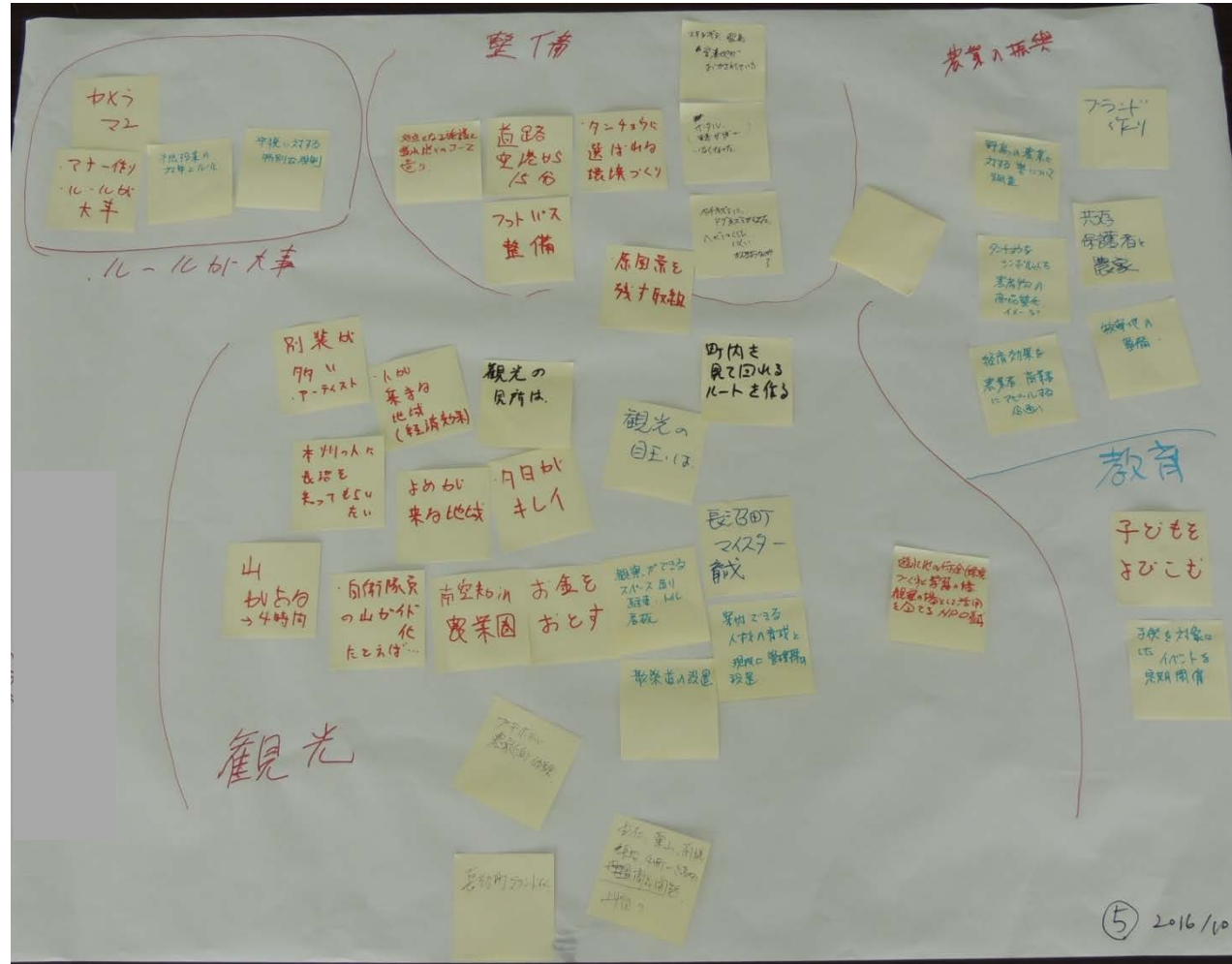
タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 意見交換会（5班）

議論内容

長沼を魅力ある地域にしたい。そのため、タンチョウに選ばれる環境づくりが必要。また、町内を見て回れるルート作りなど観光に資する取組みを推進。一方で、環境改変は自然破壊につながることから留意が必要。併せて、マナーやルール作りが重要。子どもを呼び込み教育へ活用する事も考えられる。

主な意見

- 内地からヨメが来る地域にしたい
- 長沼は夕日がきれい。町内を見て回れるルートづくりが重要
- 拠点となる施設を整備（観察、トイレ、駐車場、看板など）
- 原風景を残す取組
- カメラマンや不法投棄に対するルール作り
- 狩猟への特別な規制
- タンチョウをシンボルとした農産物の商品化、ブランドづくり
- 周辺自治体と協働した商品開発
- 野鳥による農業被害の調査
- 子ども対象のイベントの定期開催
- 長沼マイスターの育成
- 遊水地の保全と学習をコーディネートするNPO養成



野生生物と農業

～道央でのタンチョウとの共生について～

【開催目的】

タンチョウと農業従事者とのよりよい共生関係の構築をめざし、同じ農業従事者の目線から野生生物との共生について基調講演をいただき、タンチョウとの共生に向けた農業従事者の理解を得る

【開催概要】

日 時:平成28年11月21日 15:30～17:15

場 所:長沼町総合保険福祉センターリふれ 2F研修室

主 催:環境省北海道地方環境事務所

共 催:タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

参加者:67名(農業従事者、農政担当者、長沼町民、報道 など)

内 容:

北海道地方環境事務所 からタンチョウの生態や道内の生息分布と分散計画について説明。「佐渡トキの田んぼを守る会」の齋藤会長からトキの概要や朱鷺と共生する農業に取り組むまでの経緯や難しさ、意義についてご講演いただきました。齋藤会長は、佐渡でトキとの共生が進んだ1つの要因として行政・農業・生産者が三位一体となって取り組んだことを挙げられました。



佐渡トキの田んぼを守る会
齋藤会長



閉会挨拶 長沼町 戸川町長

【会場からの質問】

- ・トキの取り組みに参加していない農家のメリット、デメリット・「エサ」をやってまで鳥に来てもらうこと自体、人の営みに問題があるのではないか
- ・認証米「朱鷺と暮らす郷」の購買層
- ・長沼町だけでなく、千歳市や恵庭市も積極的に参加する 将来像
- ・タンチョウとの共生に与える生きものへの対応
- ・佐渡で実施している生きもの調査に協力する人数と生きものものの数や種数の目標値
- ・タンチョウとの共生に取り組む長沼町、長沼の農業にヒント